

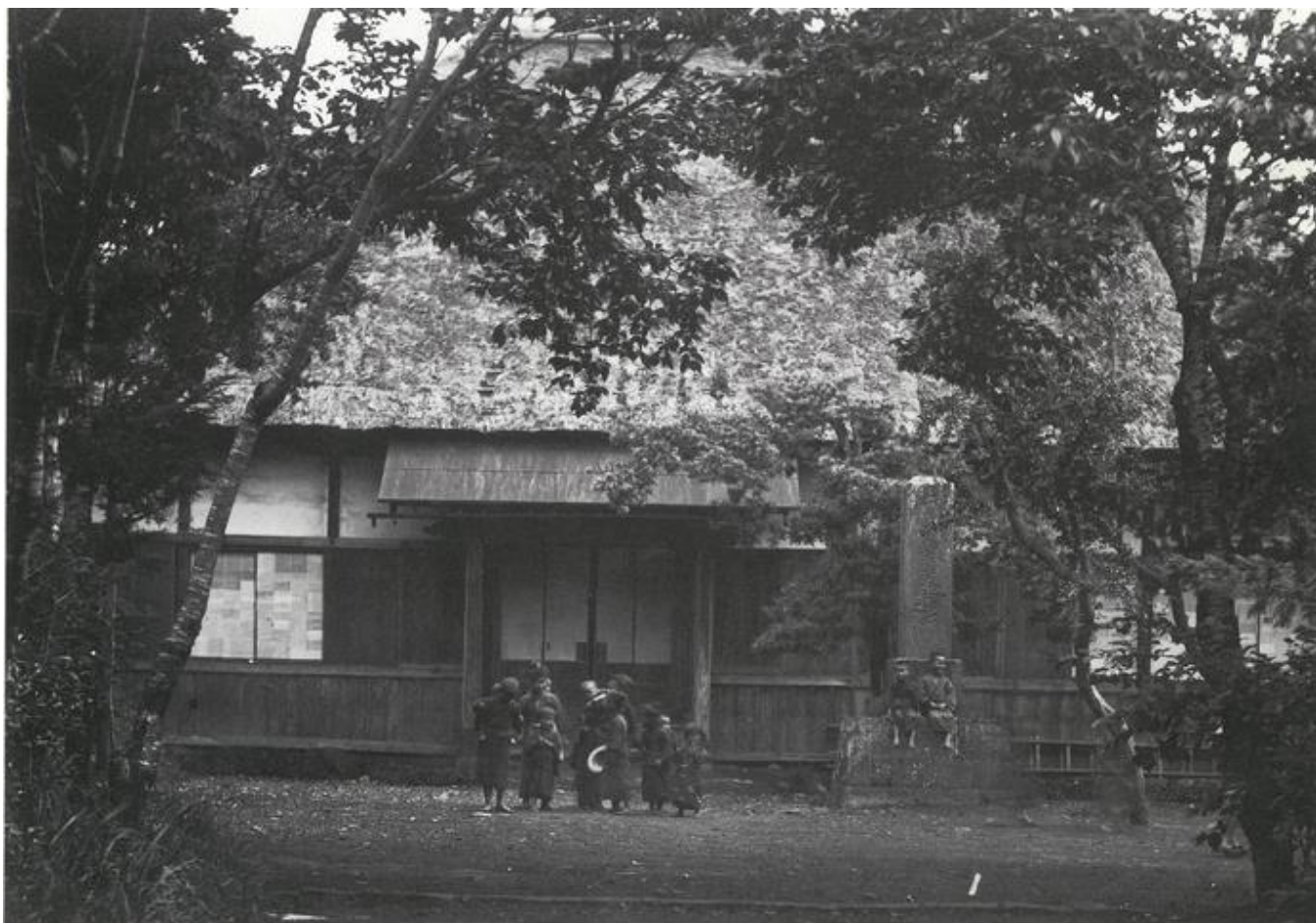
# 思い出の座間

## (明治・大正編)

座間で写真が一般的になったのは戦後に入ってからです。それ以前は写真に接する機会はごく一部の人に限られており、何かの記念に厚木や横浜などの写真屋へ出かけたり、出張して来てもらって撮影するのが一般的でした。従って人物写真が多く、風景や出来事を撮ったものはごく少ないのですが、可能な限りアルバムの中からひろい出して編集したのが昭和61年(1986)3月に発行された「目で見える座間」です。

この「思い出の座間」は、書籍の「目で見える座間」をホームページに忠実に反映することを基本にして、今回は明治・大正時代から紹介させていただきます。内容は、懐かしい風景、幻の仁王門、桜田の景観、嘉平坂に行く荷馬車、座間最古の写真、明治の学生、スポーツ、日清・日露戦争に関する写真とコメントになります。

# 懐かしい風景



## 円教寺と子供たち

円教寺は入谷地区内長宿の北にある日蓮宗のお寺である。この写真は明治44年に撮られたもので、境内で遊んでいる子供9人のうち6人までが素足で、またその内の4人までが乳児を背負っているなど、当時の生活の一断面を伝えている。



## 星谷寺観音堂

この観音堂は坂東三十三ヶ所観音のうち第八番の札所である。中央の鐘楼には、昭和42年国指定重要文化財となった嘉禄3年（1227）銘の梵鐘がある。写真は明治44年撮影のものだが、左側の太い榎（カヤ）の木は今は跡形もない。観音堂は明治30年頃トタン葺きにされたもので、それ以前は鐘楼同様に草葺きであった。



## 幻の仁王門

観音堂の入口には、運慶の作と伝えられた立派な仁王像を納めた仁王門があったが、昭和3年に焼失してしまった。

これは明治43年に撮影されたもので、当時の様子を伝える貴重な写真である。



## 観音堂の桜

桜の花の咲くころ、東側の三峯山の下から撮ったもの。  
現在は手前を小田急線が通り、人家も建ってしまった。  
明治43年撮影。



## 鈴鹿明神

この社殿は、昭和60年頃まで神楽殿に改造されて残っていた。

右手の木立の間にあるのは鐘楼で、釣鐘は第二次世界大戦中、供出させられてしまった。明治44年撮影。



## 諏訪明神と梨の木坂

諏訪明神は鈴鹿明神の古社と伝えられる。写真では社殿がかくれて見えないほど大木が繁っているが、今は残っていない。

また、左手の家屋や子供たちの様子など、当時の風俗を伝える貴重な写真である。明治44年撮影。



## 護王姫社と大欒（材木ヤキ）

北側からの遠望。左下に見える屋根は星の谷観音堂。  
明治44年撮影。





## 大櫨（材ヶヤキ）

西南側からの遠望。春であろうか手前の麦がまだ若い。明治43年。



## 護王姫社 (明治43年)

伝説によると源義経の側室だったという護王姫を安産の守護神としてお祀りしている社。



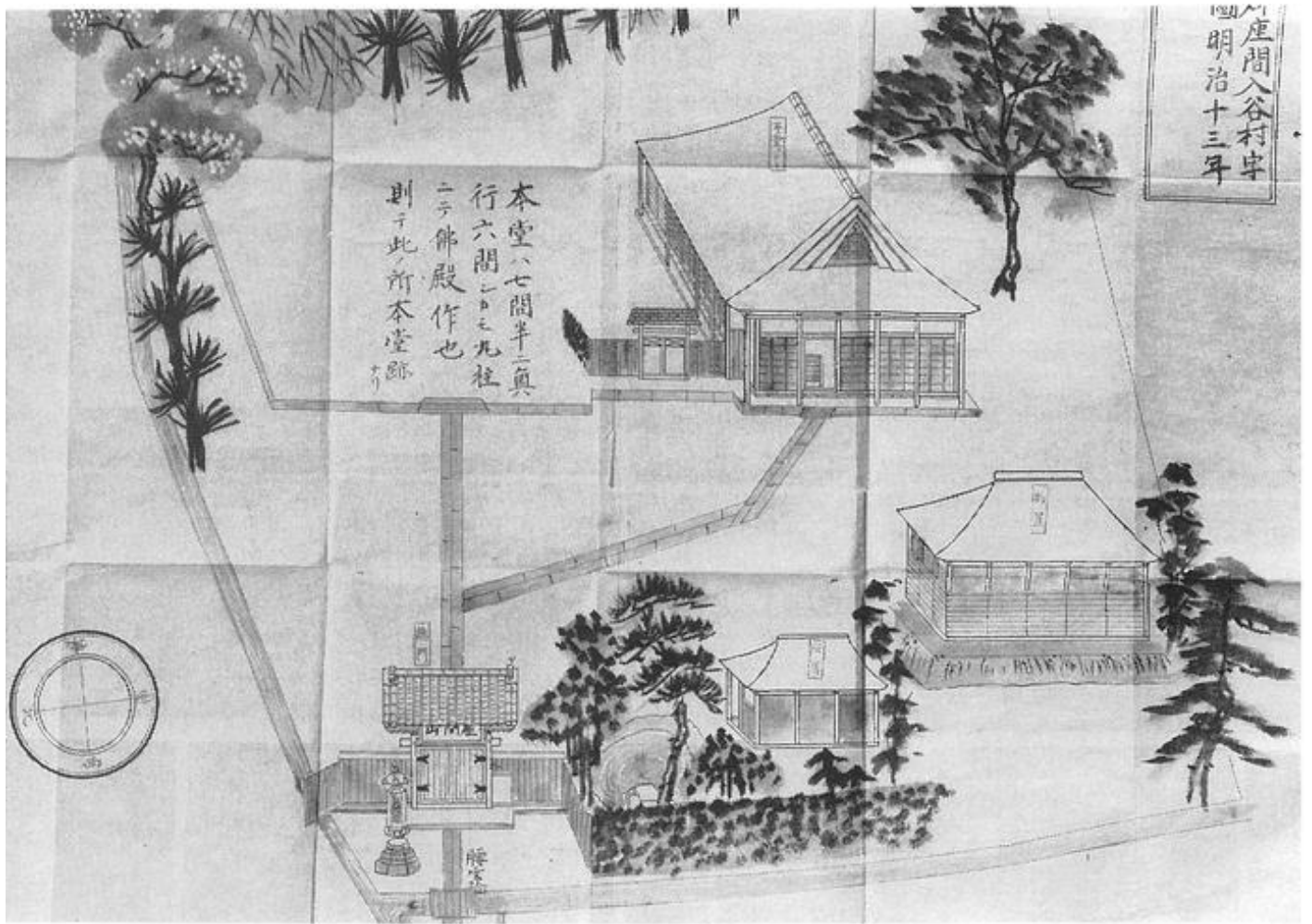
## 桜田の景観

中央の桜の木が生えているところが桜田伝説の小桜姫の墓。昭和13年に耕地整理されるまでは、墓石らしいものが残っていた。明治44年に撮影されたもので左半分は現在の座間高校グラウンド、桜田地域が湿地帯であったことを示す貴重な写真である。



## 心岩寺

臨濟宗のお寺で、もともとは相模川河畔にあったが今から570年ほど前に洪水のため流失、現在の地に再建された。その後、明治3年本堂は焼失した。写真は明治43年撮影の山門で、唯一当時をしのばせる。



明治13年の心岩寺の絵図、本堂はまだ再建されていない。



## 宗仲寺

座間1丁目にある浄土宗のお寺。写真は東側から見た景観で、本堂は明治9年の新戸(相模原市)の大火の飛び火によって焼失後、明治22年から27年にかけて建て直したものである。明治44年。



## 宗仲寺南側の景観

六反(宗仲寺西南一帯)方面から見た宗仲寺の森。  
手前の畑には桑が植えられている。明治44年。



## 座間神社

泉水(神社の西南)方面よりの遠望で、木立の間にわずかに社殿、鳥居、鐘楼などが見える。  
現在、木立の後方はキャンプ座間、崖面は座間公園となっている。明治44年撮影。





## 座間郵便局

座間郵便局は明治32年1月、瀬戸吉五郎氏により設立された。

写真はその当時のものと思われ、座間では非常にめずらしい洋風建物であった。



## 嘉平坂を行く荷馬車

荷馬車が上栗原の嘉平坂を、現在の青少年センターの方へ登っている。夏の暑い日であろう、馬の背に日除がかけられている。

この道は芝原道などと呼ばれ、入谷地域などの人が芝原(開発される前の市東部一帯)の畑へ往来した。大正末期ごろの写真か。



## 四ツ谷の越後屋

大正末期と思われるめずらしい商店の写真。  
店頭にかぼちゃが積んであるが、これは当時中元用として使われたものである。



## 四ツ谷の天神森と松

天神様の何かの神事の記念に撮ったものであろう。  
今は松も姿を消しているし、天神様も日枝神社へ  
合祀されて、この風景は見られない。明治末年ごろ撮  
影のもの。



## 飯島家の人々 座間最古の写真

写真右の飯島国保氏は高座郡第20大区9小区(座間入谷村・座間村・新田宿村・四ッ谷村)の戸長であり、左から2人目の父兵左衛門は座間入谷村最後の名主を務めた人であった。

明治9年撮影のこの家族写真は現在座間で発見された最古のものである。



## 乳母と子供

乳母は26歳、子供は7歳とのこと。大きな家では乳母を雇うのがこの辺の習慣であったのか。明治15年。



## 二人の年ごろの女性

座っている方の女性は20歳とのこと、当時の女性の普段着姿はめずらしい。明治15年。



## 新田家の人々

新田家は新田宿の諏訪明神の宮司を代々務めている家で、上の写真は明治34年3月、次の写真は明治の終わりごろに撮影されたものである。ともに年祝いか何かの記念写真と思われ、当時の風俗をうかがい知ることができる。





**新田家の人々**  
明治の終わりごろに撮影。



## 座間入谷村代議人

明治12年5月、地券名前替願の用で県の地租改正係へ出張した折に横浜で撮ったもの、写真左より山田和助、星野円蔵、宮川儀兵衛、山本喜作の各氏。

この日の星野氏の日記には次のようにある。  
五月八日 快晴

出港、山田、山本、宮川同道後四時戸部着ス、尤モ一寸、三藤江立寄ル。地券名前替願改正懸り用。



## 男衆と女衆

栗原大尽と呼ばれた大矢弥市のところで働いていた雇用人たち。明治の終わりごろの撮影。



## 明治の学生

### 耕余塾生徒

耕余塾とは、儒学者小笠原東陽が羽鳥村(藤沢市)に開いた学校で、当時の高座郡を中心に優秀な人材が多く集まった。

写真は明治23年2月のもので、後列の右端が入谷の星野義郷氏か。



## 女学生

県立高等女学校の生徒で、座間や座間近辺からの仲間といっしょに撮ったもの。明治40年ごろ。



## 厚木中学校 (厚木高校)

座間出身の同級生による大山登山記念(明治41年7月)。  
現在まで座間出身の多くの先輩がここで学び、卒業している。



嫁と姑  
普段着のスナップ。明治32年。



## 孫と祖父

初孫誕生の記念か。明治38年。



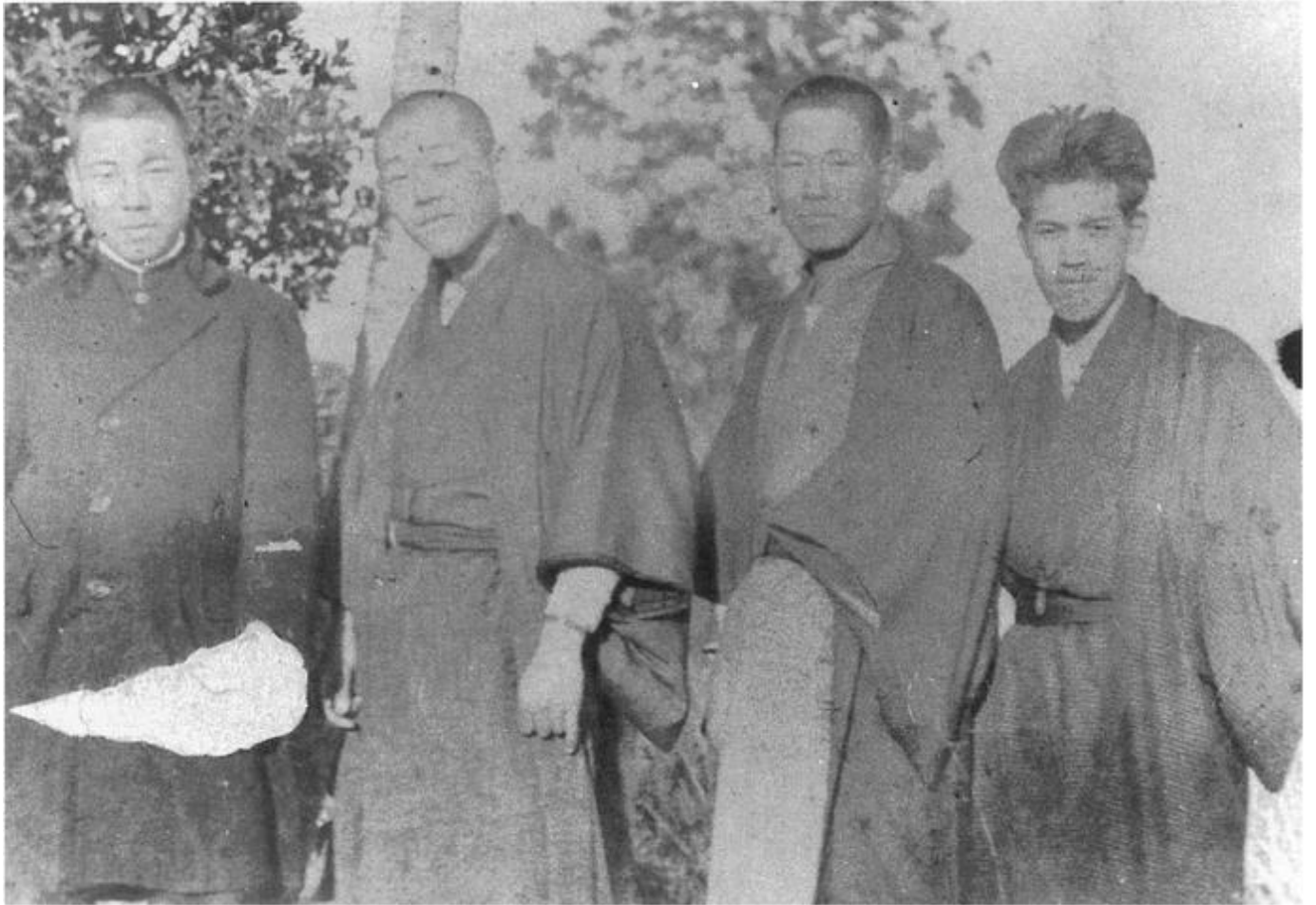


## 米寿の祝

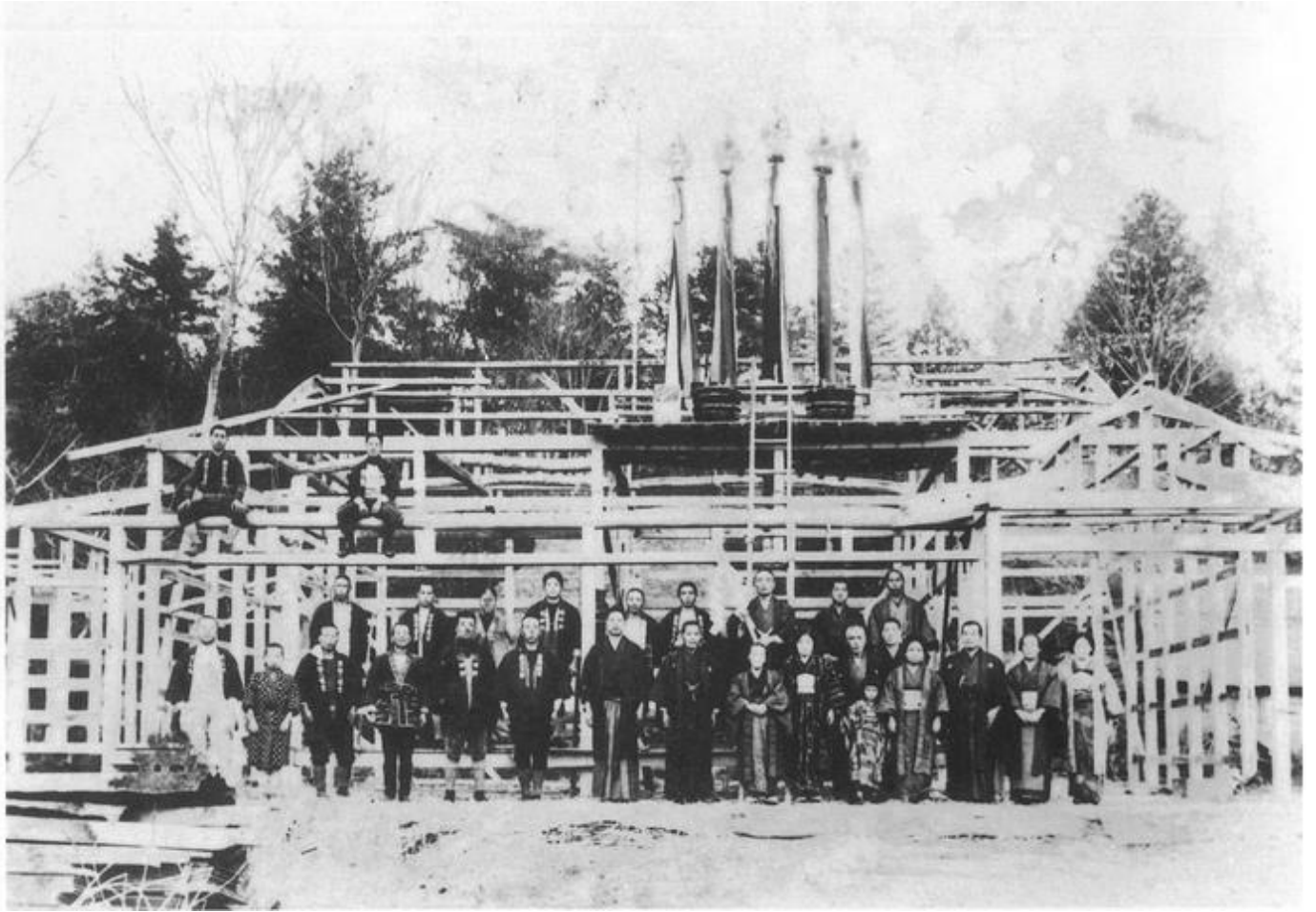
大正中ごろ。一族が集まったの記念であろう。  
この時代の各年齢層の夏の風俗がよくわかる。



大正時代の年ごろの女性



大正末期の座間のモダンボーイたち



## 上棟式

大正時代中ごろのもの。農家の建物か、昔は新木普請はめずらしかった。式のあと棟の上から餅や銭などをまいて祝った。



## 小池の倶楽部開館記念

当初の小池公民館。大正8年4月小池の住民たちの手によって建てられたもので、稚蚕の共同飼育や青年会の集まりなどに利用された。その後、別の場所に新しい公民館が出来て、ここには記念碑が建っている。



## 新田宿諏訪神社の祭典

大正15年の祭典記念。当時のお祭りの様子や若者の流行の風俗がよくわかる。



## スポーツ

### 日本最初の陸上競技大会

明治42年の春、駐日フランス大使ゼラール氏から東京高等師範学校校長の嘉納治五郎氏に対して、明治45年ストックホルムで開催される第5回オリンピック大会に日本も参加するよう話が伝えられた。そこで、嘉納氏は早稲田大学の安部磯雄氏と計り競技大会の結成を協議し、明治44年7月日本体育協会を創立した。そして、その年の11月にオリンピック派遣選手を選抜するための予選会を東京の羽田で開催した。

このとき、栗原の鈴野一存氏は1500メートル競技に出場し、4分58秒で第1位となり日本選手権を獲得した。写真は鈴野氏が所属していた東京青山師範の陸上競技部の人々と、優勝の記念に撮ったもので、中央花輪の前に座っているのが鈴野氏。



## テニス

明治40年ごろと思われる女学生か。それぞれラケットを持っているところはテニスグループの記念写真であろうか。着物の袖口がしばってあるところから、これが当時のテニスウェアであったかもしれない。





## 国際大会の優勝

栗原の鈴野寿一氏は明治神宮の陸上競技大会などに  
出場し活躍した。

写真は中国天津のフランス租界で行われた国際大会に  
出場し、1万メートル競走で優勝した時のゴールの瞬間。  
大正12年。



## 高座郡一周駅伝大会

参加した座間村チームの人たち。大正の末から昭和にかけて盛んに行われた。大正13年ごろ。



## サッカー全日本代表チーム

座間の入谷出身の星野秀臣氏はサッカー選手として、全日本代表に選ばれ、大正10年上海で行われた極東オリンピック大会に出場するなど活躍した。写真はその時のもので、後列の右端が星野氏。



## 芝居 市川吉蔵と菊田寿美子の親子共演

場面は義経千本桜の狐忠信(大正の初めごろ)座間は昔から芸能が盛んな土地柄であった。このような中で、上宿の菊田伊左衛門は横浜の伊勢佐木町にあった賑座(後の朝日座)の援助のもとに、明治15年ごろ菊田座の旗上げを行った。

伊左衛門の手助けをしたの九代目市川団十郎の一番弟子市川新蔵の養子であった市川新吾で、後に伊左衛門の娘と結婚し市川吉蔵を名乗った。

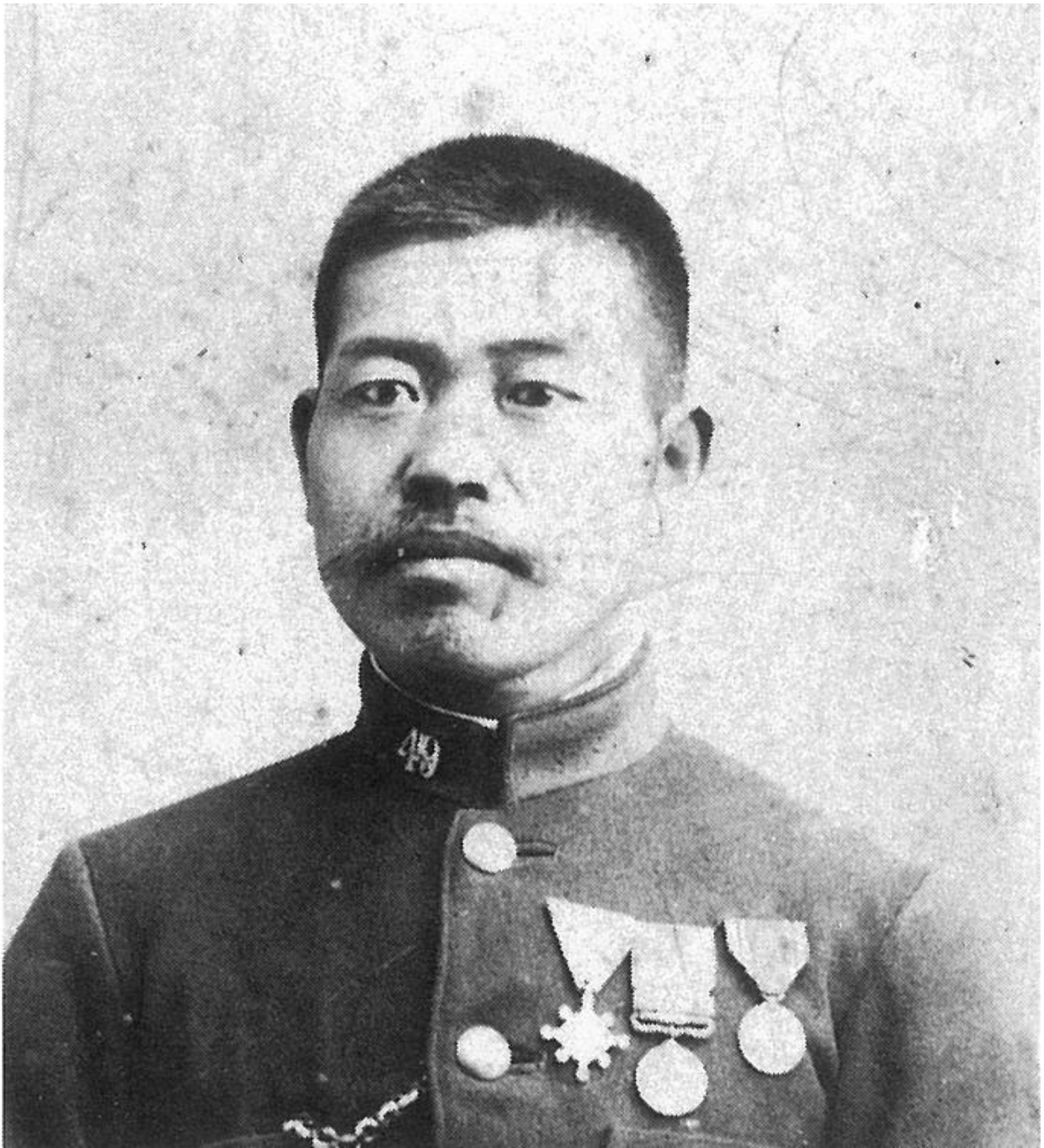


帝劇時代の菊田寿美子



## 剣舞

大正から昭和にかけて、栗原の芹沢を中心に行われ、練習には真剣を用いたという。写真は石垣佐七氏の晴れ姿で、大正の末期。



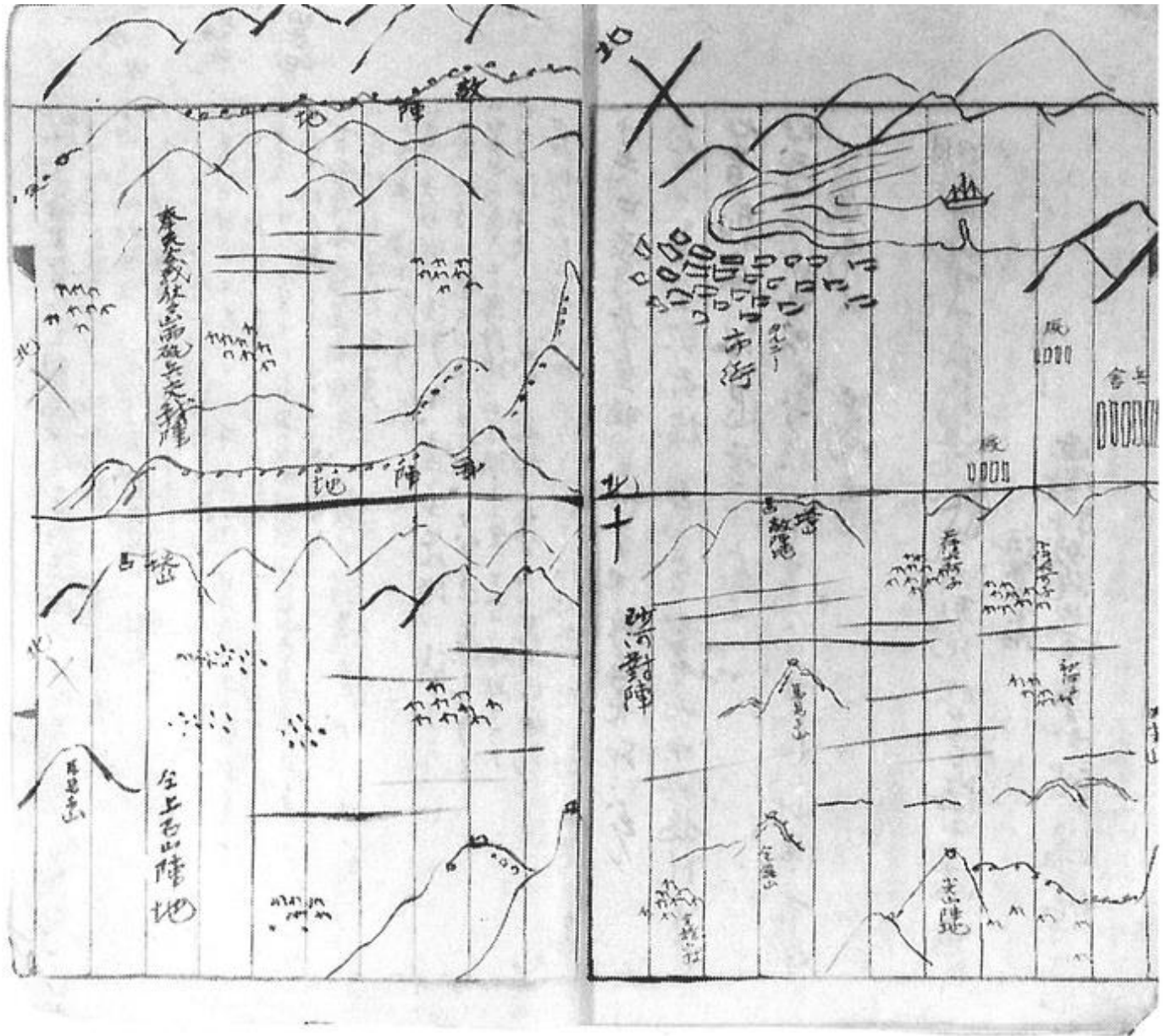
## 日清・日露の両戦役に従軍した四ツ谷の 佐川和輔氏の勇姿

明治時代に行われたこの二つの戦争に、座間からもそれぞれ6人（日清戦争）、64人（日露戦争）と多くの人が徴兵され戦っている。そして、子供のころ寝物語に203高地の激戦の様子などを聞かされた人も多く、次の写真のように、従軍日誌を戦場のスケッチをまじえながら書き残している人もある。



佐川氏が残した日清戦争従軍日記  
「西征行軍記」





## 戦場のスケッチ

新田宿の小池保治氏が書き残した、日露戦争従軍日誌中の戦場のスケッチ。



## 日露戦争凱旋記念

いずれも新田宿出身の勇士たちであり、この写真は諏訪神社に奉納されている。

# 関東大震災

大正12年9月1日に発生した、相模湾を震源としたこの大地震は、横浜・東京などを中心に関東南部に大被害をもたらした。

この座間も例外でなく、死者や負傷者をはじめ、多数家屋の倒壊、崖崩れなど大きな被害を受けた。

残念ながら、座間の惨状を知る写真は残されていないが、座間の歴史を考えると、さけては通れない問題なので、あえて取り上げてみた。



## 四ツ谷の震災記念碑

日枝神社境内にあり、地震によって倒れた鳥居で作られている。



## 地震によって山崩れを生じた丹沢の山々

地震の直後に、大山の山頂より西方を撮ったもので、白い部分が山崩れの箇所。一番高い山が塔ヶ岳。座間からも、震災後相当長い間、赤茶けた山崩れ箇所が見られた。

